

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

確かな学力と意欲・志、高いコミュニケーション能力に裏打ちされた豊かな「人間力」を持ち、社会に貢献できる生徒を育成する学校・地域に愛される学校をめざす。

1. 学力の向上（「わかる、楽しい、規律ある授業」の展開、基礎的・基本的学力の定着、進学に向けた学力の向上）
2. コミュニケーション能力の向上
3. 地域連携の推進

2 中期的目標

1 学力の向上（学ぼうとする力の育成）

- (1) 本校生徒に対して『授業の工夫・創発』(以下UD授業)、『楽しい授業』『規律ある授業』が行えるように、教員の授業力を向上させる。
 - ア 本校勤務年数が少ない教員への日常業務を通じた指導法の継承(OJT)が盛んに行われるような職場環境づくりを行う。
 - イ 教員相互の授業見学や研究授業を積極的に行う。
 - ウ ICT機器の活用をすすめ、すべての教員がプロジェクターを活用できる環境を整備して、授業改善と業務軽減を行う。
 - エ 規律ある授業が行えるよう、遅刻削減に取り組む。
- (2) 生徒の学習習慣を確立させることを通して、生徒の学習意欲を向上させる。
 - ア 生徒が放課後に校内で勉強できる場（自習室・図書室）を整備し、教員が生徒の個別指導を行える体制をつくる。
 - イ 読書習慣を確立して、読み取る力の向上に努める。
 - ウ ICT機器を活用し、わかる授業で年度末の成績不振（欠席30日以下の生徒）を無くす。
- (3) 生徒一人ひとりの進路目標に合った学力（それぞれの学力）を育成する。
 - ア 義務教育段階の学力修得を目的とした茨田検定（振り返り学習）・「基礎教養講座」や、習熟度別授業、補習などの内容を充実させる。
 - イ より発展的・応用的な学力の習得をめざす生徒に対する授業内容を充実し、授業以外の講習などを積極的に実施する。
 - ウ キャリア教育の一環として生徒の進路に応じた講座を充実させ、それぞれの進路希望を実現させる。
(生徒の進路が多様化するなか、3年後以降も進路決定率90%を超えるよう努める)(H29:92.5%、H30:90.8%、R1:87.1%)

2 より良い人間関係づくりができる学校文化の創出

- (1) 安心・安全で、より良い人間関係づくりができる学校文化を創出する。
 - ア すべての教職員のコミュニケーション指導力を充実する。
 - イ 教職員ピアサポート(以下「PM」)研修を実施し、PMの理解促進及び普及を図る。
 - ウ 活気ある学校づくりの一つとして部活動の活性化をめざす。
- (2) 生徒のコミュニケーション能力向上を図る
 - ア 生徒コミュニケーション能力の向上を図る機会を充実する。
 - イ コミュニケーションコースの内容をより充実させ、コミュニケーション能力の更なる向上をめざす。
 - ウ 英語などによるコミュニケーション・プレゼンテーション能力の向上を図る。(カルチャー・デイによる異文化理解、プレゼンテーションを意識した英語授業)
 - エ 面接指導等の進路指導を通してコミュニケーション能力の向上を図る。
 - オ 障がい者に対する理解を育て、思いやりがある生徒の育成に努める。
- (3) 教員の資質の向上
 - ア 高い教科専門的知識を持ち、粘り強く生徒に指導を行い、生徒に寄り添い課題を解決できる教員の育成に努める。

3 地域連携の推進（地域の人と楽しむ学校）

- (1) 地域連携を通じた生徒の成長
 - ア 学校とともに発展する地域を作るため、地域の活動に参加する。
 - イ 地域の一部として活動を支援してもらうため、地域の人々を学校に招聘して理解を深めてもらう。
- (2) 広報活動の充実
 - ア 学校の活動を広く理解してもらうため、学校HPの充実に努める。
 - イ より学校の良さを知ってもらうため、学校説明会の充実に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の向上	1)『UD授業・楽しい授業・規律ある授業』の実現に向けた教員の授業力向上	(1) ア・担当首席を中心に管理職や分掌長等が講師となり、若手育成に当たっている研修組織(青葉会)の内容を充実	(1) ア・青葉会を年間12回実施 ・2点を重点的に指導する。 《授業規律》 生徒の机上の整理整頓 《エビ・カルテ・サイン化》 教室掲示物・板書状況 ・毎週学年会を開催し点検事項の確認 ・青葉会と週一回の学年会開催で生徒情報の共有 ・「(自)学校生活において先生の指導は納得」目標70%(R1:65.9%) さらに改善に努める	
	ア 本校勤務年数が少ない教員へのOJTの実施	・本校勤務年数が少ない教員に対して、年度当初に授業規律の確立を重点的に指導 ・年度当初に、エビ・カルテ・サインの視点に即した教室整備を実施 ・生徒が納得感を持つ生徒指導を行うため、毎週の学年会、生指部会で指導状況の確認、点検	イ・研究授業・研究協議の実施 ・年度末に授業力向上研修を実施し校内での共有化を図る。	
	イ 教員相互の授業見学・研究授業の実施	イ・年2回の公開研究授業実施。校外外で実施される授業力向上に関連する研修、公開授業、に積極的に参加。成果を校内で共有 ・UD授業の取組みで、本校生徒の理解がより深まる授業を実施	ウ・「(自)授業が分かりやすい」目標:70%(R1:65.6%) さらに改善に努める ・「(授)授業内容に興味関心」目標:3.5ポイント以上(R1:3.24ポイント) 授業改善をさらに進める	
	ウ ICT活用による授業改善と業務軽減	ウ・校内のICT機器、大型プリンター等を活用し、UD授業の視点に立った教材の作成 ・生徒による学校教育自己診断の結果を検証して授業力向上へ結びつける方策を確立する。	・ICTを活用し教材の共有をはかり、長時間勤務を解消 目標:月80時間以上の超過勤務の解消	
	エ 規律ある授業に向けた生徒の遅刻削減	エ・遅刻の回数に応じて、担任、学年主任、首席、教頭、校長による説諭を実施 ・遅刻の回数に応じて、学年による放課後清掃指導等を行い、生徒の意識に働きかける。	エ・年間遅刻総数 5000人以下 (R1:6887人)	
	2)生徒の学習習慣確立を通じた学習意欲の向上	(2) ア・考査前、考査中の自習室と図書室への教員常駐と生徒に対する個別学習指導の実施 ・定期考査前の学習や長期休業期間後の課題学習など、時期に応じた生徒の個別学習を充実させるよう、各教科が教材準備や指導を実施 ・授業開始後に5分の規律指導、さらに「振り返り」「漢字」「計算」などの10分間の小テストを実施	(2) ア・自習室を考査前、考査中には毎日開室 ・「(自)日常的に放課後学校での学習や、家庭での学習をする」目標:50%(R1:43.3%) 改善は見られるが、さらに努める ・英数国で小テスト実施	
	ア 放課後学習の場(自習室・図書室)を整備し、教員が個別指導できる体制作り	イ・毎日の終礼、総合的な学習の時間、LHR、基礎教養などの時間を利用して、年間を通じた「10分間読書」活動を企画実施	イ・10分間読書を年間で10日実施 (R1:10日実施)	
	イ 読書習慣の確立	ウ・ICT機器活用による生徒の授業理解をすすめる、年度末成績不振(欠席30日以下の生徒)による留年をなくす。	ウ・全教員がプロジェクターを使用した授業ができる ・成績不振留年者(R1) ICT機器活用を進め、より分かりやすく丁寧な指導で削減する。	
	ウ ICTを活用したわかる授業による、成績不振による留年の防止	(3) ア・「茨田検定」にICT機器を活用 ・成績不振者への指名補習、個別指導の充実	(3) ア・茨田検定で解説・解答にプロジェクターを活用 ・各中間考査後と夏季・冬季休業期間中に、座学教科で成績不振者への指名補習を実施 目標:1年生85%の進級率 2年生95%の進級率 (R1:1年71.1%、2年86.4%)	
	3)生徒個々の進路目標に合った学力の育成	イ・2・3年生で学業成績に基づくクラス編成を実施し、成績の推移を分析しながら、各授業で生徒の学力向上をはかる。 ・外部機関の資格試験(漢検・英検・P検(パソコン検定・数検)等)を活用し、生徒の学力向上とキャリアアップを図る。	イ・1・2年生全員が英検・漢検いずれかを受検する (R1:全員受検) ・各種外部機関の資格試験合格者増加 (R1年:延べ175名)	
ア 義務教育段階の学力習得を目的とした「茨田検定(振返り学習)」「一般教養講座」習熟度別授業、補習などの内容の充実	ウ・進学希望者に対して、進路希望に応じた多様な講習を1年生から実施する。 ・就職希望者に対して、インターンシップや試験対策講座を2年生から実施 ・進路ガイダンスを充実し、退学者の減少、卒業後の離職を防ぐ。	ウ・進学、就職希望者対象用講習 開講講座数確保 (R1:講座13講座、170名) ・進路決定未定者の割合を10%以下にする。 (R1年度17名 12.1%) ・進路HRの計画的実施 (1年8回、2年5回、3年5回+基礎教養(毎週))		
イ 発展・応用的学力の習得をめざす授業内容の充実と、放課後等の講習の積極的な実施				
ウ 生徒の進路に応じた講座の充実による、進路希望の実現				

<p>2 より良い人間関係づくりができる学校文化の創出</p>	<p>1) 安心・安全で、より良い人間関係作りの実現</p> <p>ア 教員のコミュニケーション指導力の充実</p> <p>イ 教職員PM研修の実施による、PMの理解と普及促進</p> <p>ウ 部活動の活性化</p> <p>2) 生徒のコミュニケーション能力向上</p> <p>ア 生徒のコミュニケーション能力の向上機会充実</p> <p>イ 『コミュニケーションコース』の内容充実</p> <p>ウ 多文化理解と授業でのプレゼンテーション実施による、英語を含めたコミュニケーション能力の向上</p> <p>エ 進路指導を通じたコミュニケーション能力の向上</p> <p>オ 思いやりある生徒の育成</p> <p>3) 教員の資質向上</p> <p>ア 教科専門的知識を持った、粘り強い教員の育成</p>	<p>(1)</p> <p>ア・定例のコミュニケーション委員会とコミュニケーションコース担当者会議で、生徒のコミュニケーション能力向上の取組強化を図る。</p> <p>・教員それぞれが、生徒のコミュニケーション能力向上のための取組を行い、その内容と効果を集約して全教員で共有するとともに、優れた取組については全体化を図ることで、教員のコミュニケーション指導力を向上する。</p> <p>イ・「PM」のテキストを活用し、教職員PM研修を校内で実施し、校外にも普及を図る。</p> <p>・PMの技法を応用し、自分を大切に、他者を理解することをベースとした生徒指導を展開する。</p> <p>ウ・体験入部等、年度当初の新入部員獲得に向けた行事の充実</p> <p>・地域連携を活用した部活動の活性化</p> <p>・文化部の発表の場として、近隣中学や住民を招待したイベント「茨田高校フェスティバル」の開催</p> <p>(2)</p> <p>ア・校内の「あいさつ通り」を活用し、集会時、授業時でのあいさつ指導とともに全校的な指導を徹底した上で、その効果をアンケートで確認する。</p> <p>・コミュニケーションをテーマとしたホームルーム(「コミュニケーションHR」)を実施し、志学と連携したコミュニケーション教育を充実する。</p> <p>・校外のイベントへの参加促進</p> <p>・月1回の朝礼で校歌斉唱</p> <p>イ・「コミュニケーション総合」で落語家などの著名人や大学教授等を招き、充実したコミュニケーション教育を継続する。</p> <p>・「PM」「PM」の授業内容を整理し、教材及び指導方法を確立、継承を図る。</p> <p>・「PM」「PM」履修生徒の中からNPO法人シヴィルプロネット関西によるメディアエーター認定試験の合格者を出す。</p> <p>ウ・カルチャー・デイの実施</p> <p>・1年生英語会話、3年生実用英会話の授業でのプレゼンテーションの取り組み実施</p> <p>エ・希望する生徒への面接指導や、職場訪問による『働く人』とのコミュニケーション機会を増やす。</p> <p>オ 高齢者施設・障がい者との交流の場の設定、障がい者差別解消法の趣旨の理解を図る。</p> <p>(3)</p> <p>ア 各教員が外部研修等の内容伝達を職員会議で行い、粘り強く生徒へ指導する姿勢を持つことを、全教員が共有できるようにする。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・コミュニケーション委員会・コミュニケーション担当者会議の定期的実施 (コミュニケーション委員会：年20回、コミュニケーション担当者会議：年5回開催) (R1：17回・2回)</p> <p>イ・教職員PM研修年1回実施と積極的な学校見学受入</p> <p>ウ・入部率の目標：40% (R1:28%) ・茨田高校フェスティバルを年1回開催 (R1はR2年2月に実施)</p> <p>(2)</p> <p>ア・25項目のコミュニケーション能力アンケートを年2回実施 (目標：20項目以上で肯定的な回答の数値80%以上) R1(19項目) ・コミュニケーションHRを年3回実施。</p> <p>イ・コース選択生徒アンケート「コースで学んで話し方や行動が変わった」 (目標：80%以上) (R1年度89.7%) ・「PM」「PM」を担当できる教員を養成し、2名以上確保。 (R1年度2名確保) ・メディアエーター認定証取得者の増加 (R1：2名)</p> <p>ウ・カルチャー・デイの実施 (R1年11月実施) 昨年までは、International Dayとして実施</p> <p>エ・学校斡旋就職希望生徒全員に応募前職場見学を実施 (R1：117社 213名) ジュニアインターシップ実施 (R1：4社 6名)</p> <p>オ・年1回の交流会を実施 ・生活福祉の授業での施設交流 (R1：6回)</p> <p>(3)ア ・「(自)教員の指示に納得」 目標：70%(R1：65.9%) さらに改善をめざす ・「(授)授業で知識技能が身につく」 目標：平均3.5ポイント以上 (R1：3.26ポイント) さらに改善に努める</p>	
<p>3 地域連携の推進</p>	<p>1) 地域連携を通じた生徒の成長促進</p> <p>ア 地域活動への参加</p> <p>イ 校内での地域の人々との交流</p> <p>(2) 広報活動の充実</p> <p>ア HPの充実</p> <p>イ 学校説明会の充実</p>	<p>1)</p> <p>ア 地域活動への参加回数維持する。</p> <p>イ・体育祭や文化祭、茨田高校フェスティバルを活用して地域の人々を学校や行事に招き、交流を持つ。</p> <p>・中学の部活動を招いて実施する「茨田カップ」の開催継続(H30年度2回)</p> <p>・今年度もPTA文化教室に地域の人の参加枠を設ける。</p> <p>(2)</p> <p>ア 学校HPを、1週間に1回更新する。</p> <p>・災害時の対応、行事、授業参観案内をプリント配布と共にHPに掲載し保護者にも周知</p> <p>イ 本校での説明会の充実、地域や中学校での学校説明会へ積極的な参加と共に、積極的な中学校訪問の実施、学校案内送付の充実を図る。</p>	<p>1)</p> <p>ア 地域活動への参加 R1(10回)</p> <p>イ・近隣住民に広報 ・年間3回以上の開催 R1(3回) ・文化教室年1回の実施 R1(1回)</p> <p>(2)</p> <p>ア・1週間に1回の更新を維持する。 (R1年度 月2回更新)</p> <p>イ・本校での説明会以外に地域や中学校での説明会参加回数を維持。申し出があれば断らない。 9・10月を中心に、全教員で近隣中学校訪問</p>	